



写真上／以前は小学校3年生以上という制限があったが、現在は幼稚園児からの参加もOKだ。写真左上／譜面のない口承芸能だけに、各保存会によって、しゃぎりの特徴は全く異なるという。「それぞれに自分たちが一番だと思って、誇りを持っているところがまた楽しい」と内藤さん。写真左下／42団体を代表して、岩手県山田町で「三島しゃぎり」を披露する錦田連合の子どもたち。



郷土芸能と地域の絆を伝承させる仕掛け人

伝統 07



三島夏まつり 子供しゃぎり 運営委員会

子どもたちに 発表の場を

「チャンチキ、チャンチキ」。5月初旬になると、三島市のあちこちで、宵の口から「しゃぎり」練習の音が響き始める。三島っ子の血が騒ぐ、夏到来の合図だ。

「三島しゃぎり」として三嶋大社の夏祭りなどで奉納される三島囃子は、約450年前から伝わる郷土芸能。昭和42年には三島市の無形民俗文化財に指定されている※。しかし、祭りの形態の変化や町名変更などで一時衰退…。それを「何とか復活させたい」と(社)三島青年会議所メンバーが地区団体に働きかけ、昭和52年に大社前で演奏披露したことから、「子供しゃぎり大会」が誕生した。そして、その後には結成され、大会事業を引き継いでいるのが、「三島夏まつり子供しゃぎり運営委員会」なのだ。

大社の祭りは当番制。以前は6年に一度の当番町だけしか「しゃぎり」ができなかったが、「子供しゃぎり大会」があれば、みんなが毎年演奏できる。子どもたちにとつて、ここは練習の成果を発表する最高の舞台。今では登録団体42、約1500人が参加するまでに成長した「三島夏まつり」の

※平成3年、静岡県の無形民俗文化財に指定。

風物詩は、「子どもたちには本当に、欠かせないものになっていまして」と、前会長の牛田利清さんはしみじみ語る。

伝統芸能が自らを助ける

「8曲ある「しゃぎり」には楽譜がない。「本当に口から口へ、手から手へ。最近、○や△が書かれた譜面で教えている町内もありませんが、私は一切、譜面は使いません」と、昔ながらの口承伝統を守るのは、運営委員会副会長の石川正康さん。子どもは覚えが早いというが、やはり練習時間には限りがある。「だから、しゃべったりしていたら、ガツンと怒りますよ。『しゃぎり』はみんなが一つにならなければできないものだから、そこはきっちり教えます」。

今は家庭でも学校でも、子どもを厳しく叱ることが少なくなった。だから、親以外の大人から叱られるのもいい経験だ。自身も小学生の時に参加したという会長の大庭健彦さんは、「普段は小学生とお年寄りが触れ合う機会は少ないけれど、ここでは本当に昔ながらの触れ合いができる。お年寄りが教えるのはいいことだと思いますね」と話す。



子供しゃぎり運営委員会 事務局/TEL:080-1605-1008 kodomoshagiri@gmail.com

運営委員会では平成23年から、東日本大震災で親を失った子どもたちのために募金活動を400日展開。9月に岩手県山田町で行われた「復興山田がんばっぺし祭り」に参加し、「しゃぎり」を披露した。そこで、逆に山田町から子どもたちが地域と関わることの大切さを学んだという。「震災時に、こういう活動に属している子どもの方が結束したそうです。今は私たちが伝統芸能を守っているように思うかもしれないけれど、大変な時にはそれが私たちを守ってくれると。だから、今後は『地域に本当に根付くこと』を目標にやっつけていきたい」と事務局長の内藤愛子さん。子どもたちに伝えたいのは、「しゃぎり」を守ることだけでなく、そこから生まれる地域の強い絆と広がりなのかもしれない。



伊豆の宮三嶋大社の例大祭に合わせて行われる「三島夏まつり」。この一大イベントで、今や欠かせないのが「子供しゃぎり大会」だ。初夏から練習を積んできた三島っ子たちが、自身の誇りをかけて、競り合う様は、まさに圧巻。ライジエイムだがその裏には、衰退の途にあった郷土芸能を、未来に伝承しようとする大人たちがいた。

関連info. 三島夏まつり

勇壮な山車の競り合い、胸高鳴るしゃぎりの音。伝統と熱気が漂う三島市最大のイベント「三島夏まつり」は、三嶋大社の例大祭に合わせて、毎年8月15日～17日の3日間にわたり行われます。三島夏まつりの歴史は古く、元は三嶋大社の新穀豊作に感謝する秋の酉の日の祭りでしたが、時代とともに市民参加の祭りとして発展。毎年県内外から多くの人々が訪れ、にぎわいをみせています。夏まつりの3日間には、当番町の山車の引き回しや競り合い、山車しゃぎり大会、子供しゃぎり大会、頼朝公旗挙げ行列、梯子のり、農兵節、みしまサンバ、流鏝馬、手筒火花などが行われます。

お問合せ/三島市商工観光課 TEL:055-983-2656

